



【天の川河口周辺地区】



【慶応2年頃(1866)上ノ国絵図】(北海道大学北方資料室蔵)



花沢館跡入口

① 花沢館跡(昭和52年国指定史跡)

花沢館跡は、15世紀中頃に北海道南西部に築かれた道南十二館(通称)の一つとされ、長禄元年(1457)のコシャマインの戦いで北斗市の茂別館と共に陥落しなかったとされています。館は、丘陵上に立地し、標高約60mの頂上部後方に空堀が配置されています。また、花沢館跡は発掘調査の成果から、有事の際に利用される臨時的な山城としての役割が考えられ、館主である蠣崎季繁が亡くなった寛正3年(1462)ごろまで機能したと考えられています。



洲崎館跡入口

② 洲崎館跡(平成18年国指定史跡)

洲崎館跡は、松前藩の歴史書『新羅之記録』(しんらのきろく)には、長禄元年(1457)のコシャマインの戦いで功をあげた武田信廣が蠣崎季繁の養女である安藤政季の娘を妻とし、同年築いた館と記述されています。発掘調査では、掘立柱建物跡や竪穴建物跡の住居のほか、中国産の青磁・白磁、瀬戸産の壺、珠洲産のすり鉢などがみつかっています。洲崎館は、蠣崎氏が天の川北岸への勢力拡大の始まりとなる館跡として、非常に重要な拠点として16世紀初頭まで機能しています。



勝山館跡

③ 勝山館跡(昭和52年国指定史跡)

勝山館は、洲崎館の築城より遅れること10数年、1470年頃に天の川左岸の中心部で標高100mの丘陵に築かれた館跡で、16世紀にかけて機能し、軍事・政治・北方交易の拠点とされています。発掘調査では、数多くの住居や出土遺物のほか、アイヌが使用した骨角器や和人墓と隣接したアイヌ墓が見つかったことから、和人とアイヌの混住説が唱えられています。また、史跡指定地内に建てられた「勝山館跡ガイダンス施設」では、出土品や復元された館の模型及び墓のレプリカを見学することができます。

西暦	おもなできごと
1189	源頼朝による奥州藤原泰衡を追討した際、糠部・津軽より人々が夷島(北海道)へ逃げたとされる。
1432	安藤盛季、南部氏に敗れ、十三湊から夷島へ逃げる。
1442	安藤泰季、南部氏に敗れ、翌年十三湊から再渡海する。
1457	コシャマインの戦い。武田信廣洲崎館を築く。
1462	洲崎館に毘沙門堂創建。蠣崎季繁没す。
1473	勝山館に館神八幡宮創建。
1494	武田信廣没す。長男光廣跡を継ぐ。
1513	松前大館陥落する。
1514	2代光廣松前大館へ移り、勝山館に城代を置く。
1529	セタナイ(せたな)のアイヌのタナサカシが勝山館を攻める(3代義廣)。
1536	セタナイ(せたな)のアイヌのタリコナが勝山館を攻める(3代義廣)。
1548	勝山館城代基廣が謀反。一荒神堂の伝説
1551	夷狄商船往還之制度。セタナイのアイヌのハシタインを天之河郡内に置く。
1552	勝山館城代南条廣継の妻謀反。一桂岡逆さ水松の伝説
1558	4代季広医王山頭陀寺建立。明治26年に夷王山神社となる。
1578	蠣崎正廣安土で織田信長に拝謁。
1593	5代慶廣、肥前名護屋で秀吉に拝謁し、朱印状を賜る。
1596	檜山番所を上ノ国に置いたとされる。
1604	5代慶廣徳川家康より、黒印状を賜る。(松前藩成立)
1618	キリスト教宣教師アンジェリス上ノ国に拠る。
1678	檜山番所江差へ移る。



※写真は拝殿。本殿は拝殿奥の覆屋に安置され拝観はできません。

④ 上ノ国八幡宮本殿(町指定文化財)

上ノ国八幡宮は、武田信廣によって勝山館に文明5年(1473)に創建され、館神または館神八幡宮と呼ばれていました。現在の本殿は、様式等から元禄12年(1699)に造営され、道内で現存する神社建築として最古とされています。拝殿は、江差町の正覚院の金毘羅堂を移設したもので、屋根の棟部分に金毘羅堂の金という文字が当時の名残を偲ばせます。また、明治9年(1876)に若宮社を合祀して、現在の旧笹浪家の隣りに移設されています。



きゅうさなみけしゅうたくおもやどぞう

⑤ 旧笹浪家住宅主屋・土蔵(重要文化財)

笹浪家は上ノ国で代々鯨(ニシン)漁などを営んできた旧家の一つです。初代は享保年間に能登国笹波村(現石川県珠洲市)から松前福山に渡った後、上ノ国に移り住んだとされています。当主は、代々久右衛門(きゅうえもん)を襲名し、現在の主屋は、天保9年(1838)に没した能登屋笹浪家の5代目久右衛門が建てたと伝えられています。旧笹浪家住宅は、北海道の現存する民家建築として最古に属し、北海道の日本海沿岸に今も残るニシン番屋の原型とも言われています。



じょうこくじほんどう

⑥ 上國寺本堂(重要文化財)

上國寺本堂は、松前藩初代慶廣が祖先の武田信廣(勝山館初代館主)の菩提を弔うために建立され、菅江真澄の記録によれば永禄年間(1558~70)開創したと伝えられています。現在の本堂は、宝暦8年(1758)に建てられ、現存する寺院建築として道内最古に属するとされています。当初は真言宗でしたが、江戸時代中期より浄土宗に改宗されています。また、本堂で、平成20~23年度にかけて保存修理事業が実施され、欄間の彩色などが色鮮やかに復元されています。